



GPM買収に係るご参考資料

2014年12月12日

日本電産株式会社

注意事項



本プレゼンテーション及び引き続き行われる質疑応答の際の回答には、将来に関する見通し、期待、判断、計画あるいは戦略が含まれています。この将来予測に基づく記載や発言は、為替変動、製品に対する需要変動、各種モータの開発・生産能力、関係会社の業績、及びその他のリスクや不確定要素を含みます。本プレゼンテーション及び引き続き行われる質疑応答の際の回答に含まれる全ての将来的予測に基づく記載や発言は、プレゼンテーションの日に入手可能な情報に基づいており、私達は、このような将来予測に基づく記載や発言を更新する義務を負いません。また、この記載や発言は、将来の実績を保証するものではなく、実際の結果が、私達の現在の期待とは、実体的に異なる場合があります。このような違いには、多数の要素が原因となり得ます。



I. 本件取引概要及び対象会社概要

3

取引概要



- 買収対象
Geräte- und Pumpenbau GmbH Dr. Eugen Schmidt (以下、GPM)
- ストラクチャー
GPMの持分100%を取得
- 対価／決済及び資金調達方法
持分取得対価は現金で、手元現金を充当します。
- ストラクチャー
当社が持分譲渡契約書の契約当事者ですが、当社子会社(Nidec Motors and Actuators (Germany) GmbH)がGPMの持分100%を譲り受ける予定です。
- クロージング
2015年2月を予定。
- 財務面への影響
➢ 連結業績への影響は、詳細が確定次第開示の予定。

4

買収目的



- 欧州トップクラスのシェアを有する車載用ポンプメーカーの買収の機会の獲得
 - とりわけVWグループ、ダイムラーとの取引関係が強く、その歴史も長い。
 - GPMの高い技術力を背景に、開発を中心に関係構築が出来ており、先行ニーズを把握出来る立場に。
- 将来的に非常に大きな成長が期待できる電動ポンプ事業への本格参入機会の獲得
 - CO2規制の強化によって、OEMはアイドリングストップ機能搭載の自動車やHV、EVの開発・生産を強化しており、今後電動ウォーター/オイルポンプの飛躍的需要拡大が見込まれる。
- 当社グループ会社とのシナジー効果
 - 当社のモーターと、GPMのポンプがセットとなることで電動ポンプ化が実現し、売上シナジーが見込まれる。
 - 電動化について、エレシスの有するコントロール技術の活用による電動ポンプのパワーパック化。

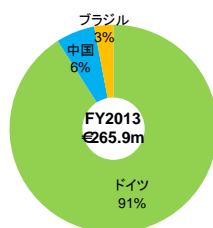
5

GPMの概要

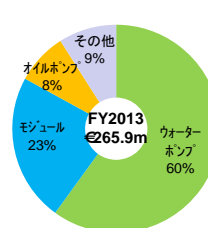


- 本社： ドイツ テューリンゲン州 マーベルスロッド
- 主要拠点： ドイツ(マーベルスロッド)、ブラジル(インダイアトゥーバ)
中国(蘇州)
- 設立： 1939年
- 事業内容： 乗用車・商用車向けポンプおよびモジュール等の開発・製造・販売
- 売上高： 265.9百万ユーロ(2013年12月期)
- 従業員数： 1,047名(2013年12月31日時点)

拠点別売上高



セグメント別売上高



6

GPMの所在地

Nidec -All for dreams-



7

GPMの主な製品/主要顧客

Nidec -All for dreams-

ウォーターポンプは欧州トップクラスの市場シェア

<p>ウォーターポンプ</p> <p>コンベンショナルウォーターポンプ</p> <p>バリアブルウォーターポンプ</p>	<p>オイルポンプ</p> <p>コンベンショナルオイルポンプ</p> <p>バリアブルオイルポンプ</p>	<p>トランスミッションオイルポンプ</p> <p>モジュール</p>
---	---	---

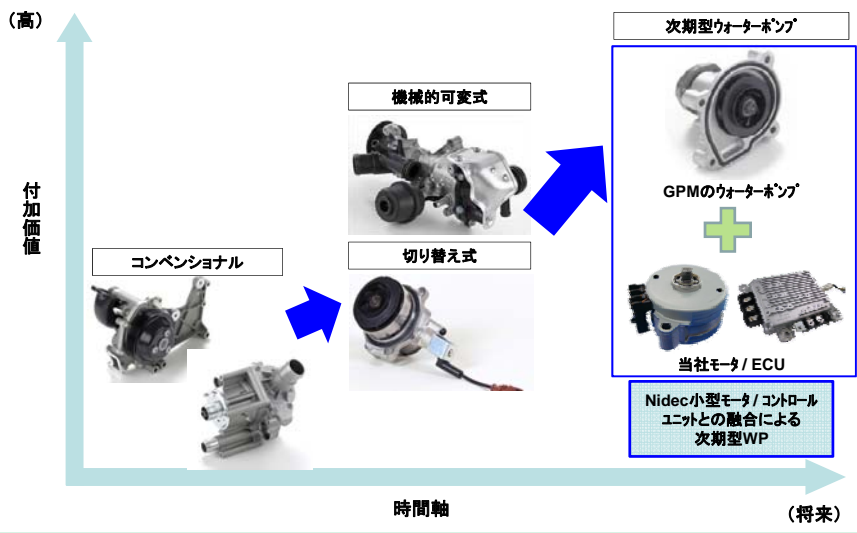
欧州主要OEMとの取引実績



8

GPMの製品戦略(ウォーターポンプを例に) **Nidec** All for dreams.

特にウォーターポンプにおいて優れた製品開発をしてきており、
今後も高い技術力を活かした高付加価値製品を供給



II. 当社車載事業の戦略

車載事業(AMEC)の事業構成



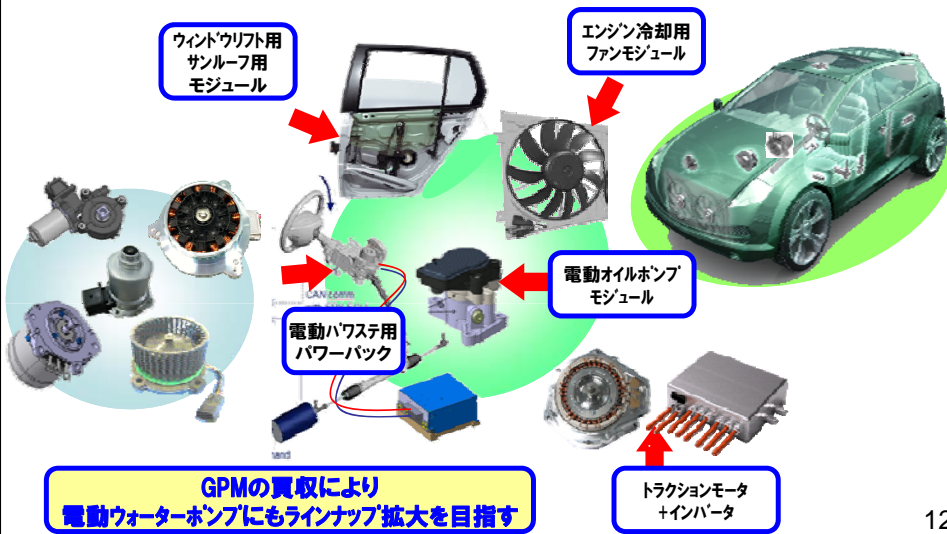
車載用モータ 日本電産 日本電産自動車モータ・アメリカ 日本電産モーターズ アンド アクチュエーターズ	自動車部品 日本電産トーソク 日本電産サンキョーシーエムアイ	電子制御ユニット (ECU) 日本電産エレスシス
		<p><先進安全技術の領域></p> <p><電子制御ユニットの領域></p>

11

車載事業の拡大戦略



モータ単体からシステム、モジュール化へ。高付加価値シフトを加速
 電動化の潮流のもと、Tier 1ビジネスへの更なる進出を図る



12

GPMとの一体化による電動ポンプ事業への本格参入
電動化時代のTier 1へと変貌

1)世界的なCO2規制強化の潮流のもと、
主要電動化コンポーネントのモータ製品を戦略的に開発
①EPS、②DCT、③電動ポンプ、④新世代ブレーキ

2)車載事業本部のモータとGPMの各種ポンプの
セットによる電動ポンプ事業への本格参入

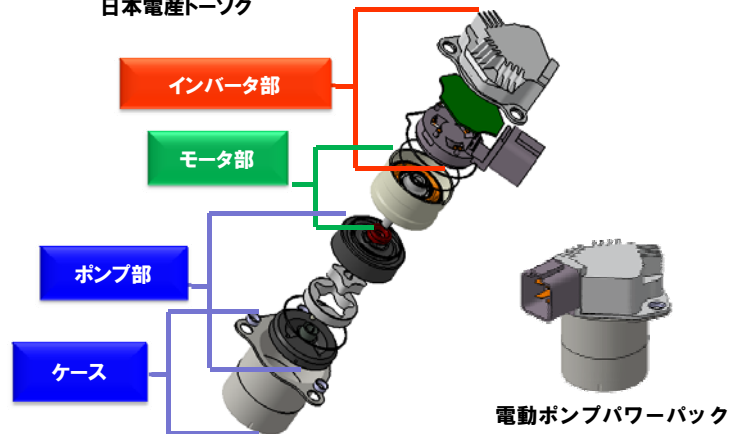
3)当社グループ会社との様々なシナジーの期待
 > エレシスのECUとのパワーパック化
 > 部品の内製供給によるコストダウン
 > クロスセリング



グループシナジーを活かしたモジュール製品で受注機会の拡大が加速

電動オイルポンプ/ウォーターポンプ・パワーバック

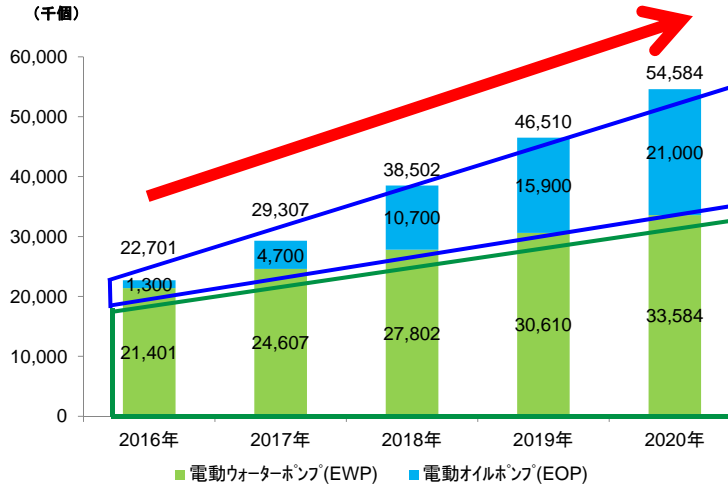
■ GPM ■ 日本電産 ■ 日本電産エレシス
日本電産トールック



電動ウォーター/オイルポンプの市場伸長

2016年からの4年間で、市場が2倍超になる潜在的マーケット

電動ウォーター/オイルポンプ市場予測(世界、数量ベース)

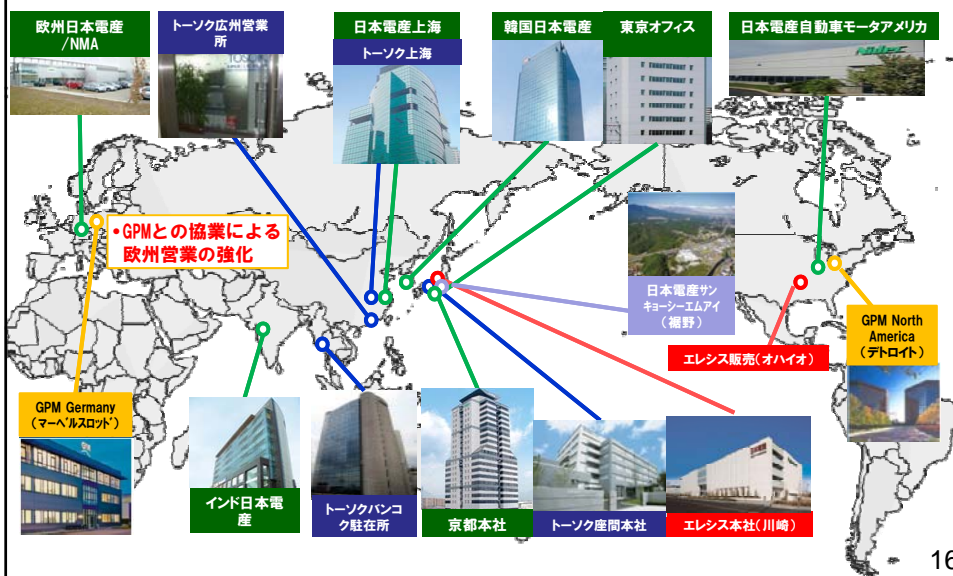


日本電産トーソクとの共同開発で、競争力の高い製品開発を図る

今回の買収で成長著しいEWP市場の取り込みが期待できる

車載事業のグローバル営業拠点

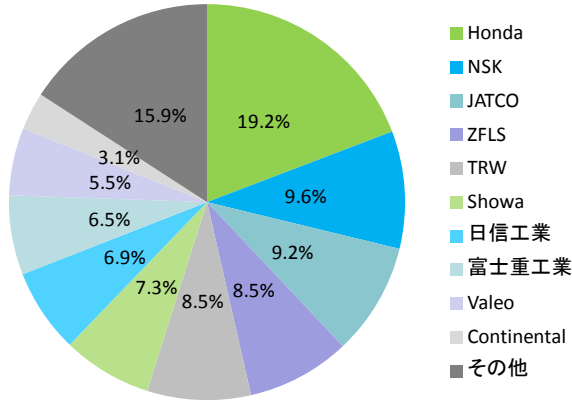
GPM獲得により、欧州・米国OEM向けの営業強化



車載事業の主要顧客

GPM製品の当社グローバル顧客への拡販、また、当社車載グループ製品のGPM欧州顧客への拡販が期待される

車載事業の主要顧客(売上金額上位20社)



その他(11位~20位)詳細:

11位...JTEKT (2.7%)、12位...Inalfa (2.2%)、13位...Getrag (2.2%)、14位...Mando (1.8%)、15位...Behr (1.4%)、16位...Webasto (1.3%)、17位...Delphi (1.3%)、18位...Faurecia (1.2%)、19位...LuK (1.0%)、20位...JCI (0.8%)

車載事業のグローバル生産拠点

本買収を通じて、欧州生産体制強化とブラジル生産拠点獲得を実現
インド日本電産を活用したGPM製品のインド市場での拡販を狙う



